

鈴鹿市考古博物館年報
第6号

平成15年度版

2005

鈴鹿市考古博物館

鈴鹿市考古博物館年報
第 6 号

平成 15 年度版

2005

鈴鹿市考古博物館

表目次

Tab.1 入館状況	6	Tab.4 試掘調査一覧	10
Tab.2 調査件数の推移	8	Tab.5 報告書抄録	35
Tab.3 本調査一覧	9		

挿図目次

Fig.1 企画展「縄文と弥生の間」	2	Fig.37 調査区全景	24
Fig.2 特別展関連講座「磯山銅鐸を考える」	2	Fig.38 遺構平面図	25
Fig.3 企画展「文字瓦を考える」	3	Fig.39 SD1205	25
Fig.4 体験講座「昔の色で染めよう」	3	Fig.40 SD1201 鉄製紡錘車の出土	25
Fig.5 入門講座「北畠氏館跡の発掘調査」	4	Fig.41 SD1201 断面	25
Fig.6 夏休み子ども博物館	4	Fig.42 SD1201	25
Fig.7 おいん鈴鹿	4	Fig.43 弥生土器壺	26
Fig.8 刊行した図録	5	Fig.44 弥生土器高坏	26
Fig.9 試掘調査地位置図 (1)	11	Fig.45 須恵器蓋坏・短頸壺	26
Fig.10 試掘調査地位置図 (2)	12	Fig.46 須恵器脚付短頸壺	26
Fig.11 伊勢国分寺跡 (第 29 次) 位置図	14	Fig.47 重弧文軒平瓦	26
Fig.12 伊勢国分寺跡発掘調査区配置図	15	Fig.48 加佐登遺跡位置図	28
Fig.13 SB0302	15	Fig.49 調査区配置図	29
Fig.14 僧坊調査区全景	15	Fig.50 遺構平面図	29
Fig.15 伊勢国府跡 (第 18 次) 位置図	16	Fig.51 土器棺墓実測図	29
Fig.16 18-1 次 6AJC-F 区と政庁基壇	17	Fig.52 出土遺物	30
Fig.17 18-2 次調査区	17	Fig.53 調査区全景	31
Fig.18 伊勢国府跡調査区配置図	17	Fig.54 調査区北東部	31
Fig.19 天王遺跡 (第 11 次) 位置図	18	Fig.55 SX01 検出状況	31
Fig.20 天王遺跡調配置図	19	Fig.56 SX01	31
Fig.21 主要遺構配置図	19	Fig.57 SX02	31
Fig.22 11-3 次調査区遺構平面図	19	Fig.58 SX03	31
Fig.23 11-1 次調査区全景	20	Fig.59 SX04	31
Fig.24 11-2 次 (北) 調査区全景	20	Fig.60 SK08・SK09	31
Fig.25 11-3 次調査区全景	20	Fig.61 縄文土器・石器	32
Fig.26 11-2 次 (南) 調査区全景	20	Fig.62 平野遺跡位置図	33
Fig.27 11-1・2 次調査区遺構平面図	21・22	Fig.63 調査区配置図	33
Fig.28 SD1188	23	Fig.64 出土遺物実測図	33
Fig.29 SD1188 出土弥生土器台付甕	23	Fig.65 山皿・須恵器蓋	33
Fig.30 SD1188 出土須恵器蓋坏	23	Fig.66 遺構平面図	34
Fig.31 SD1188 出土須恵器脚付短頸壺	23	Fig.67 調査区全景	34
Fig.32 SB1130	23	Fig.68 SK01	34
Fig.33 倉庫群	23	Fig.69 SD06	34
Fig.34 SE1173 出土柀・ヘラ	23		
Fig.35 複弁十二葉蓮華文軒丸瓦	23		
Fig.36 天王遺跡 (第 12 次) 位置図	24		

I . 展示および教育普及活動

I. 展示活動

1. 企画展「縄文と弥生の間」

日本における東西文化の中間地点にあたる伊勢湾西岸地域を中心に、縄文晩期から弥生前期にかけての土器・墓制・住居などについて紹介。

1. 期間 7月13日～9月7日
2. 期間中の入館者数 4,605名
3. 関連講座
演題：縄文から弥生へ - 伊勢の動き -
期日：7月13日午後2時から
講師：山田猛氏（三重県埋蔵文化財センター）
参加者：53名
4. 観覧料 常設展観覧料と共通
5. 主な展示資料



Fig.1 企画展「縄文と弥生の間」

資料名	遺跡名	所有者
縄文土器深鉢	権現坂遺跡（北勢町）	三重県埋蔵文化財センター
縄文土器深鉢	宮山遺跡（大安町）	三重県埋蔵文化財センター
石刀	南浦遺跡（桑名市）	三重県埋蔵文化財センター
縄文土器深鉢	宇賀遺跡（桑名市）	桑名市教育委員会
弥生土器鉢	永井遺跡（四日市市）	四日市市教育委員会
縄文土器深鉢	西野遺跡（四日市市）	四日市市教育委員会
縄文土器深鉢	上箕田遺跡（鈴鹿市）	鈴鹿市考古博物館
弥生土器壺	上箕田遺跡（鈴鹿市）	鈴鹿市考古博物館
弥生土器壺	居敷遺跡（鈴鹿市）	鈴鹿市考古博物館
縄文土器深鉢	忍山遺跡（亀山市）	亀山市教育委員会
弥生土器壺	納所遺跡（津市）	三重県埋蔵文化財センター
縄文土器壺	四ツ野B遺跡（津市）	津市埋蔵文化財センター
弥生土器壺	中ノ庄遺跡（三雲町）	三重県埋蔵文化財センター
縄文土器深鉢	蛇亀橋遺跡（嬉野町）	三重県埋蔵文化財センター（嬉野町教育委員会）
石刀	下ノ庄東方遺跡（嬉野町）	三重県埋蔵文化財センター
縄文土器浅鉢	森添遺跡（度会町）	度会町教育委員会

2. 特別展 磯山銅鐸の時代

磯山銅鐸及び伊勢湾沿岸より出土した銅鐸とその関連遺物を中心に展示。

1. 期間 10月25日～11月30日
2. 期間中の入館者数 1,277人
3. 関連講座
演題：磯山銅鐸を考える
期日：11月23日午後2時から
講師：難波洋三氏（京都国立博物館考古研究室長）
参加者：130名
4. 観覧料 常設展観覧料と共通



Fig.2 特別展関連講座「磯山銅鐸を考える」

5. 主な展示資料

資料名	出土地・遺跡名	所有者（保管）
袈裟禪文銅鐸	三重県鈴鹿市磯山	東京国立博物館
袈裟禪文銅鐸	不詳	財団法人辰馬考古資料館
流水文銅鐸	三重県津市神戸	東京国立博物館
流水文銅鐸	大阪府八尾市恩智垣内山	東京国立博物館
袈裟禪文銅鐸	三重県四日市市伊坂町	菟上耳利神社（四日市市立博物館）
銅鐸鎔范（重要文化財）	大阪府茨木市東奈良遺跡	文化庁（茨木市立文化財資料館）

6. その他 「おいん鈴鹿」の会場及び近隣幼稚園で募集した銅鐸模型をエントランスホールに展示。

3. 企画展「文字瓦を考える」

伊勢国府跡・伊勢国分寺跡出土文字瓦の分類の成果を中心に、近隣地域の例との比較を交えながら展示

1. 期間 1月17日～3月7日

2. 期間中の入館者数 612人

3. 関連講座

演題：瓦から見た北勢地域の古代寺院と官衙

期日：1月25日

講師：竹内英昭氏（斎宮歴史博物館）

参加者：45名

4. 観覧料 常設展と共通

5. 主な展示資料

資料名	所有者
伊勢国府跡出土文字瓦	鈴鹿市考古博物館
伊勢国分寺跡出土文字瓦	鈴鹿市考古博物館
平城宮跡出土文字瓦	奈良文化財研究所
恭仁宮跡出土文字瓦	京都府立山城郷土資料館
大野寺跡出土文字瓦	堺市立埋蔵文化財センター



Fig.3 企画展「文字瓦を考える」

4. 速報展 発掘された鈴鹿 2003

2003年に鈴鹿市内で発掘された遺跡について紹介。

1. 期間 3月20日～7月4日

2. 期間中の入館者数 3,060人

3. 観覧料 常設展と共通

4. 主な遺跡

- 伊勢国府跡（第18次）
- 伊勢国分寺跡（第29次）
- 天王遺跡（第11・12次）
- 加佐登遺跡



Fig.4 体験講座「昔の色で染めよう」

Ⅱ．教育普及及び資料保存活動

1. 博物館講座

体験講座 「古代の工芸に挑戦」

6月14日 午前9時30分から

参加者 10名

体験講座「昔の色で染めよう」

9月27日 午後1時30分から

参加者 2名

体験講座 「勾玉を作ろう」

12月13日 午前10時30分から

参加者 13名

「ガラス玉を作ろう」

3月14日 午前9時30分から・午後2時から

参加者 8名

* 講師はすべて当館学芸員

入門講座 「北畠氏館跡の発掘調査」

講師 石淵誠人氏（美杉村教育委員会）

5月11日 午後2時から

参加者 37名

シリーズ古代の役所と寺を考える

「宮町遺跡の発掘調査 - ここまでわかった紫香楽宮 -」

講師 鈴木良章氏（信楽町教育委員会）

「天王遺跡発掘調査速報」講師 林 和範（当館）

3月21日 午後1時30分から

参加者 46名



Fig. 5 入門講座「北畠氏館跡の発掘調査」



Fig. 6 夏休み子供博物館

2. 夏休み子ども博物館

夏休み期間中、子供向けに体験学習（勾玉・土笛・拓本・復元・アンギン・草木染・兵庫鎖・火起こし）を行った。また、所蔵するビデオソフトを閲覧できるように、機材を設置した。

期日：7月19日～8月31日

会場：博物館講堂

期間中入館者：4,380人

3. 体験学習

体験学習の中でも人気の高い勾玉・土笛作りを予約不要で行えるようにしている。

実施日：毎土・日曜日及び祝日

材料費：勾玉を作ろう 200円・土笛を作ろう 100円



Fig. 7 おいん鈴鹿

4. 博物館実習

期日：7月19日～8月31日（各期間中の1週間ずつ）

内容：夏休み子ども博物館指導及び遺物整理作業

参加者：愛知学院大学 1名 北里大学 1名 皇學館大学 1名 高知大学 1名 信州大学 1名
鈴鹿国際大学 6名

5. 教員研修

期日：7月

内容：夏休み子ども博物館指導

参加者：市内小学校教員 1名

6. おいん鈴鹿

期日：10月3日～5日

会場：ショッピングセンターサンズ2階特設会場

内容：「磯山銅鐸の時代」予告ミニ展示・銅鐸の模型作り

勾玉を作ろう

参加者数：(勾玉) 75名・(銅鐸) 17名

7. 資料の貸出

(1) 展示

①資料名 寺谷17号墳出土 巫女形埴輪 2点

展覧会名 特別展「はにわー形と心ー」

展示館 四日市市立博物館

②資料名 保子里1号墳出土金製垂飾付耳飾(レプリカ) 1点

同 単龍環頭大刀柄頭(レプリカ) 1点

展覧会名 特別展「ファッションの考古学～東海版～」

展示館 可児郷土歴史館

(2) 教材

①資料名 高井B遺跡 山茶碗 15点

徳居34号窯跡 須恵器甕片 13点

利用目的 考古学実習

利用者 鈴鹿国際大学

②資料名 写真 2点 パネル 6点(平成14年度企画展「戦争遺跡を掘る～鈴鹿市が生まれた頃」で使用したもの)

利用目的 戦争についての調べ学習

利用者 鈴鹿市立牧田小学校

8. 博物館ホームページ

URL <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/> において博物館の事業案内等を行っている。



Fig. 8 刊行した図録

Tab. 1 入館状況

15年度	開館日数	入館者数 合計	大 人			小 人		
			個人	団体	無料	個人	団体	無料
4月	24	476	134	16	218	24	0	84
5月	26	1,369	152	29	187	38	0	963
6月	24	870	127	0	131	45	0	567
7月	26	1,561	271	0	374	12	0	904
8月	26	3,053	542	0	760	0	0	1,751
9月	24	354	116	0	140	23	0	75
10月	26	633	98	8	203	16	0	308
11月	25	1,191	423	114	269	45	18	322
12月	20	208	60	0	31	8	0	109
1月	22	258	99	0	57	9	0	93
2月	23	234	139	0	59	19	0	17
3月	25	357	138	0	70	15	0	134
累計	291	10,564	2,299	167	2,499	254	18	5,327

Ⅱ．埋蔵文化財事業の概要

I. 埋蔵文化財発掘調査事業と調整協議

1. 伊勢国府跡ほか発掘調査事業

国・県の補助を得ながら鈴鹿市広瀬町・西富田町に所在する伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）の確認調査の発掘調査を実施している。調査は平成4年度に着手し、これまでに国府政庁と瓦葺礎石建物群からなる官衙ブロック2地点を確認している。その成果を元に、平成14年3月19日には、主要な3地区73,940㎡が国史跡「伊勢国府跡」として指定された。平成15年度は政庁南方の遺構の広がり最終的な確認と、北方官衙ブロックの北西部の範囲確認を中心に調査を進めた。調査にあたっては調査指導委員会として下記の先生・機関に指導をいただいた。

併せて個人住宅建築等にかかる市内遺跡の範囲確認・緊急発掘調査（別表）を実施した。

- 大場範久（神戸高等学校教諭・鈴鹿市文化財調査会会長）
- 川越俊一（奈良文化財研究所平城京跡発掘調査部考古第二調査室長）
- 金田章裕（京都大学副学長）
- 高瀬要一（奈良文化財研究所文化遺産研究部遺跡研究室長）
- 八賀晋（三重大学名誉教授）
- 渡辺寛（皇學館大学教授）
- 和田勝彦（四日市市立博物館館長）
- 文化庁文化財部記念物課 三重県教育委員会生涯学習分野文化財保護チーム
三重県埋蔵文化財センター 斎宮歴史博物館

2. 史跡伊勢国分寺跡記念物保存修理事業

鈴鹿市国分町に所在する伊勢国分寺跡は大正11年に国史跡に指定された。指定面積は39,880㎡である。鈴鹿市教育委員会は昭和63年から3ヵ年で寺域の範囲確認調査を行い、築地塀で囲まれた約180m四方の寺域を確定した。その成果を元に鈴鹿市は平成7年から3ヵ年で指定範囲とその周辺約50,000㎡を公有地化した。平成11年度から史跡公園整備に向けた伽藍配置確認の発掘調査を継続し、昨年度からは国・県の補助事業として実施している。平成15年度は、僧房の確認、昨年度の調査で存在が明らかになった伽藍地東側の院の内容確認、そして塔の有無確認に主眼をおいて調査を行った。調査に際しては「伊勢国府跡ほか発掘調査事業」と同じ先生・機関に指導をいただいている。

なお、史跡地内の除草等の管理を行うとともに、春には菜の花、秋にはコスモス等で築地等の範囲の明示を行っている。

3. 開発事業に伴う届出件数と発掘調査

平成15年度も開発事業に伴う届出件数及び発掘調査件数は低調である。民間開発にかかる発掘の届出（文化財保護法57条の2）は51件、公共事業にかかる発掘の通知（同57条の3）5件とともにほぼ横ばい傾向にある。うち、試掘調査を実施したものは、民間開発29件（周知外4件を含む）、公共事業5件である。その他については立会調査、慎重工事として対応した。民間の試掘調査についての費用は原則として公費負担で（「伊勢国府跡ほか発掘調査事業」の一部として）実施している。大規模なものとしては、国土交通省から委託を受け一般国道23号中勢道路（バイパス）鈴鹿第5工区建設に先立つ4遺跡の試掘調査（3,450㎡）を実施した。

本調査を実施したものは4件で病院改築2件、個人住宅建築等2件である。開発事業に係る本調査面積は3,587㎡であった。

Tab. 2 発掘調査件数の推移

	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度	
	試掘	本調査	試掘	本調査	試掘	本調査	試掘	本調査	試掘	本調査
公共	0	2	2	2	0	1	0	1	5	0
民間	23	11	30	3	36	6	27	4	33	4
計	23	13	32	5	36	7	27	5	38	4

4. 開発協議

公共事業と埋蔵文化財保護との調整は、例年年度末に庁内各課に次年度以降の事業照会を実施し個別に協議を進めているが、平成15年度については本調査に移行するような案件は無かった。県の事業についても、三重県埋蔵文化財センターからの依頼を受け、遺跡地図との照合・分布調査等を行っている。

民間開発については鈴鹿市開発指導要綱にかかる事前協議や都市計画法等にかかる届出・申請・協議等に際し、必要に応じて埋蔵文化財の保護について協議を行っている。さらに事業者もしくは代理者から事前に文化財の有無照会を求められた際には、遺跡地図との照合や現地の踏査を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の有無について回答している。

またインターネットを利用し、鈴鹿市のホームページ上の「地理情報」ページから遺跡地図や遺跡情報を自由に閲覧できる。(URL <http://www.city.suzuka.mie.jp/gyosei/shinsei/chiri/index.html>)

II. 室内整理作業

出土遺物の整理は博物館において実施している。5名の臨時職員が水洗・注記・復元等の整理作業にあたっている。遺物の実測・写真撮影、報告書の執筆は調査担当者が遺物整理員の協力を得ながら進めている。発掘調査にかかる図面・写真については博物館で保管し、出土遺物のうち主要なものは考古博物館に、その他の遺物については市内2か所の収蔵庫（河田町1064番・三宅町1883番の1）に分散して保管している。

III. 公開普及活動

発掘調査の成果については報道機関に公開し、現地説明会を実施するように努めているが、平成15年度は諸般の事情から伊勢国分寺跡第29次調査の現地説明会1件（平成16年1月30日実施）のみにとどまり、約50名の参加者があった。また、同調査では鈴鹿市立創徳中学校地歴クラブの体験発掘も受け入れた。

考古博物館ホームページにおいて月ごとの成果を報告するとともに、現地説明会資料や頒布・配布の終了した報告書をPDF化して順次公開している。

Tab. 3 本調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査原因	費用負担者	調査期間	調査面積 (㎡)	頁	
1	伊勢国分寺跡 (第29次)	国分町字堂跡 297 ほか	学術調査 (史跡整備)	鈴鹿市 (国庫補助事業)	2003/8/4 ~ 2004/3/9	2,374	14	
2	伊勢国府跡 (第18次)	広瀬町字矢下 26・1144 字仲土居 1283-2 西富田町 字矢卸 1015-15・16・17	学術調査	鈴鹿市 (国庫補助事業)	2003/4/17 ~ 2003/11/26	950	16	
3	天王遺跡 (第11-1次)	岸岡町 589-2	病院施設建設	三重県厚生農業 協同組合連合会 鹿島・日本土木 建設工事共同企 業体	2003/4/28 ~ 2003/7/18	900	18	
	天王遺跡 (第11-2次)				2003/8/21 ~ 2003/10/10			1400
	天王遺跡 (第11-3次)				2004/11/4 ~ 2003/12/5			300
4	天王遺跡 (第12次)	岸岡町 589-2	援護寮・福祉ホ ーム施設建設	三重県厚生農業 協同組合連合会	2003/4/18 ~ 2003/7/18	803	24	
5	加佐登遺跡	加佐登二丁目 2540-1	個人住宅兼店 舗建築	個人・鈴鹿市 (国庫補助事業)	2003/7/16 ~ 2003/7/26	111	28	
6	平野遺跡	平野町 1168-1	個人住宅建築	鈴鹿市 (国庫補助事業)	2004/2/27 ~ 2004/3/15	73	33	

Tab. 4 試掘調査一覧

日時	遺跡名(遺跡番号)	所在地	調査原因	費用負担者	調査対象面積 (㎡)	試掘面積 (㎡)	調査概要	保存対応
H15. 4. 10	狐穴遺跡隣接地 (包蔵地外)	西条 1 丁目 1218	集合住宅	鈴鹿市※	362	60	遺構あり・遺物なし	工法変更
H15. 4. 14	包蔵地外	北玉垣町字北小野田 4105-1・4106-1 南玉垣町 6193・6194・6195	宅地開発	鈴鹿市※	1,000	33	遺構・遺物なし	施工可
H15. 4. 16	乗鞍遺跡(207-991)	上田町字北野 732-2・737・714・ 692-2・707・706・701	土取り	原因者	17,000	200	遺構・遺物なし	施工可
H15. 4. 17	稲生天雷山遺跡(207-893)	稲生 2 丁目 3509-1	個人住宅	鈴鹿市※	78	4	遺構・遺物なし	施工可
H15. 4. 22	平田遺跡(207-386)	平田本町一丁目 191-1 外	宅地開発	鈴鹿市※	2,000	100	遺構あり・遺物あり	要本調査
H15. 5. 9	一反通遺跡(207-533)	上野町字一反通 784-1	個人住宅	鈴鹿市※	84	11	遺構・遺物なし	施工可
H15. 5. 9	石薬師東遺跡 (207-727)	石薬師町字山起 571-131	個人住宅	鈴鹿市※	112	25	遺構・遺物なし	施工可
H15. 5. 13	染野遺跡(207-593)	中瀬古字染野 536-5・537-6	個人住宅	鈴鹿市※	107	5	遺構・遺物なし	施工可
H15. 6. 6	石薬師東遺跡(207-727)	石薬師町字山起 571-131	個人住宅	鈴鹿市※	4	2	浄化槽試掘・遺構・遺物なし	施工可
H15. 5. 16	国分遺跡(207-838)	国分町字南條 1367・1367-3	個人住宅	鈴鹿市※	79	7	遺構あり・遺物なし	工法変更
H15. 7. 3	加佐登遺跡(207-7)	加佐登 2 丁目 2540-1	個人住宅 兼店舗	鈴鹿市※	372	11	遺構あり・遺物あり	要本調査
H15. 7. 7	林崎遺跡(207-1178)	林崎 2 丁目 822-3	個人住宅	鈴鹿市※	84	4	遺構・遺物なし	施工可
H15. 7. 8	林崎遺跡(207-1178)	林崎 2 丁目 861-2	個人住宅	鈴鹿市※	96	7	遺構・遺物なし	施工可
H15. 7. 15	包蔵地外	寺家町字當郷 1308 外	福祉施設	鈴鹿市※	3,000	40	遺構・遺物なし	施工可
H15. 8. 24	砂山遺跡(207-887)	岸岡町 3090-67・19	個人住宅	鈴鹿市※	245	6	遺構・遺物なし	施工可
H15. 9. 1	稲生道遺跡(207-1320)	末広町字稲生道 1-17	個人住宅	鈴鹿市※	253	13	遺構・遺物なし	施工可
H15. 9. 4	長者屋敷遺跡(207-306)	広瀬町丸内 2636-1・2637-1・2638-1 の一部	宅地開発	鈴鹿市※	1,456	95	遺構・遺物なし	施工可
H15. 9. 2	須賀遺跡(207-166)	矢橋 3 丁目 318・319・320	福祉施設	鈴鹿市※	4,500	320	遺構なし・遺物あり	慎重工事
H15. 9. 11	石薬師西山遺跡 (207-1002)	石薬師町 2355	個人住宅	鈴鹿市※	954	10	遺構・遺物なし	施工可
H15. 9. 29	貝戸部遺跡(207-728)	上野町字貝戸部 945-3・946-2・948-3	個人住宅	鈴鹿市※	340	9	Pit, 溝検出・山茶碗	工法変更
H15. 10. 1	池ノ下Ⅱ遺跡(207-1163)	鈴鹿市稲生町字池ノ下 8246 外	国道新設	国土交通省	18,000	1,300	遺構・遺物なし	施工可
H15. 10. 1	浄土池遺跡(207-1188)	鈴鹿市稲生町字野田 8237 外	国道新設	国土交通省	2,800	330	遺構・遺物なし	施工可
H15. 10. 1	野田遺跡(207-898)	鈴鹿市稲生町字野田 8545 外	国道新設	国土交通省	15,000	970	遺構・遺物なし	施工可
H15. 10. 1	甲懸Ⅱ遺跡(207-1164)	鈴鹿市稲生町字甲懸 9590 外	国道新設	国土交通省	11,000	1,150	溝検出・埴輪	要本調査
H15. 10. 23	天王遺跡(207-873)	岸岡町字山田 810-13	個人住宅	鈴鹿市※	64	5	遺構・遺物なし	施工可
H15. 10. 25	宮上道遺跡(207-703)	小田町 581-1 外	市道新設	鈴鹿市※	1,500	250	遺構あり・遺物あり	要本調査
H15. 11. 13	天王屋敷遺跡(207-364)	岸岡町字石塚 1254-1	集合住宅	鈴鹿市※	2,695	84	遺構なし・遺物あり	慎重工事
H15. 12. 4	岡田遺跡(207-385)	弓削一丁目 1-28	個人住宅	鈴鹿市※	408	4	遺構あり・遺物あり	工法変更
H15. 12. 5	天王屋敷遺跡(207-364)	岸岡町字石塚 1251 外	集合住宅	鈴鹿市※	2,695	65	遺構あり・遺物あり	協議中
H15. 12. 17	石薬師東遺跡(207-727)	石薬師町字願入坊 284	個人住宅	鈴鹿市※	180	11	遺構・遺物なし	施工可
H16. 1. 9	白子代官所跡(207-1283)	白子一丁目 6125-64	個人住宅	鈴鹿市※	258	7	遺構なし・遺物あり	慎重工事
H16. 1. 27	白子代官所跡(207-1283)	白子一丁目 6125-18	個人住宅	鈴鹿市※	490	7	遺構・遺物なし	施工可
H16. 2. 17	津賀東部遺跡(207-523)	高塚町字神垣 182-6	個人住宅	鈴鹿市※	170	10	遺物・遺構なし	施工可
H16. 2. 17	平野遺跡(207-158)	平野町字花林 1168 番 1	個人住宅	鈴鹿市※	295	12	遺構あり・遺物あり	要本調査
H16. 3. 9	須賀遺跡(207-166)	須賀一丁目 95 番 1	個人住宅	鈴鹿市※	313	7	遺構あり・遺物なし	工法変更
H16. 3. 2	長者屋敷遺跡(207-306)	広瀬町丸内 2636-1・2637-1・2638-1	宅地開発	鈴鹿市※	2,915	95	遺構・遺物なし	施工可
H16. 3. 10	平野遺跡(207-210)	国府町 2190-1	集合住宅	鈴鹿市※	210	12	遺構あり・遺物あり	要本調査
H16. 3. 17	一ノ宮(包蔵外)	一ノ宮町字七九部縄 1420・1421	集合住宅	鈴鹿市※	1,600	14	遺物・遺構なし	施工可

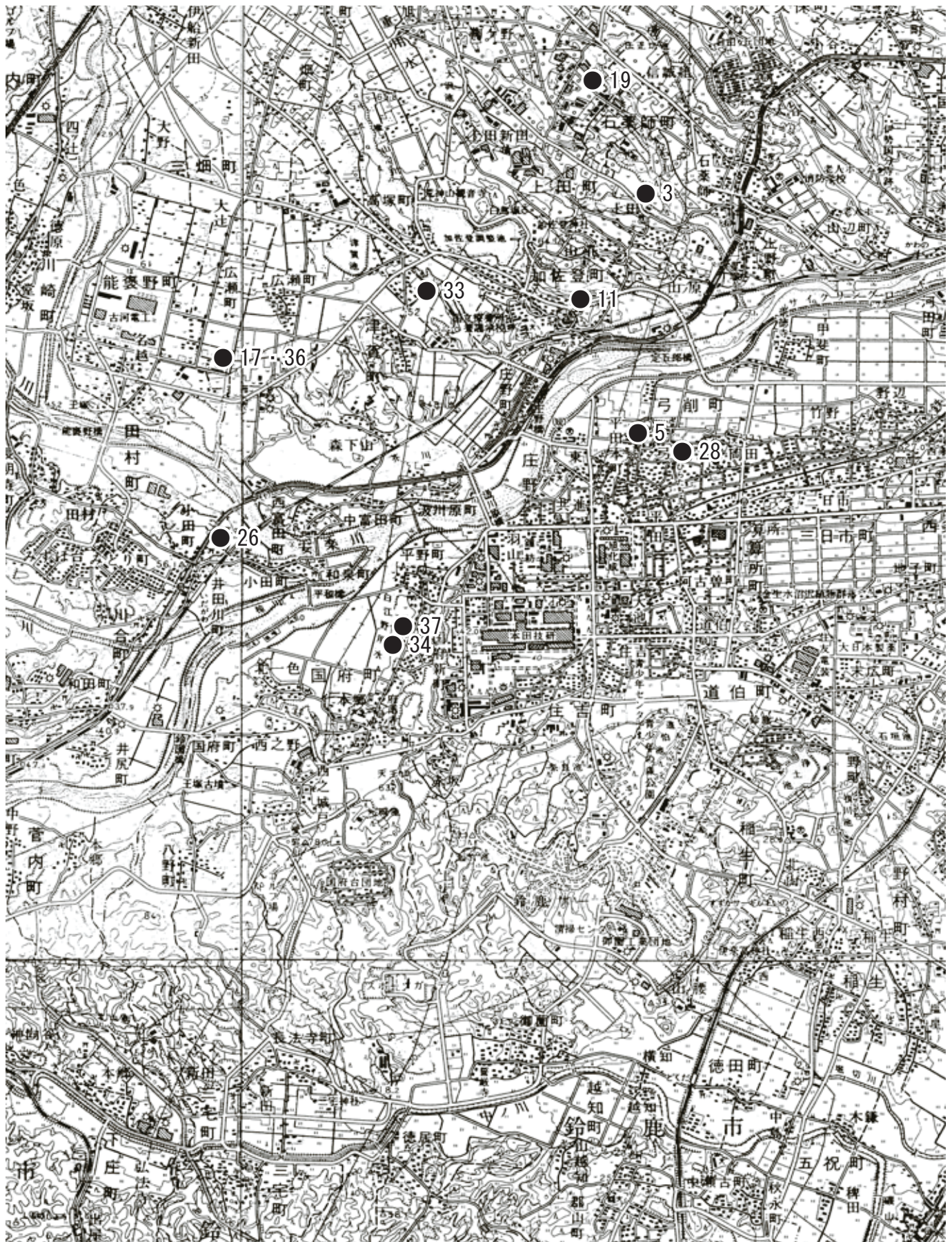


Fig. 9 試掘調査地位位置図 (1)



Fig.10 試掘調査地位位置図 (2)

Ⅲ．平成 15 年度発掘調査概要報告

1. 伊勢国分寺跡（第29次）

所在地 鈴鹿市国分町字堂跡297ほか
事業主体 鈴鹿市
調査目的 学術調査（国・県補助）
調査期間 平成15年8月4日～平成16年3月15日
調査面積 2,374 m²
調査主体 鈴鹿市教育委員会
調査担当 藤原秀樹

1. これまでの経過

伊勢国分寺跡は、大正11年10月12日に国の史跡に指定されている。平成11年度から、史跡公園整備に先立つ伽藍配置および規模確認の調査に着手した。これまでの調査で講堂・金堂・中門・回廊・南門といった中心伽藍の位置と規模を確認している。今年度の調査は、僧坊の確認・規模確認と、昨年度の調査で確認された築地で区画された南東・北東院の性格の把握そして塔の有無確認である。

2. 調査の成果

【僧坊推定地・僧坊推定地東調査区】

僧坊 SB0350 礎石建ち瓦葺きの建物であったと見られるが、全く削平されていて基壇や地下の基礎地形も見当たらない。外周の溝についても、良好に残っていたのは東調査区の一部のみである。他は何らかの攪乱を受けている。外周溝および基壇を避けるように掘られたと考えられる後世の溝、そして推定伽藍中軸線から復原される規模は南北9m×東西72～73mである。

軒廊 SC0360 僧坊と講堂を結ぶ。基壇は全く削平されている。西側の瓦溜溝と講堂主軸線から幅6mの軒廊が復原される。

【北門推定地調査区】

北辺築地 SA0351 上部は全く削平され、内外の側溝から推定される。基底幅は約3mである。

北門 SB0359 北辺築地の内側の溝の間が9m(30尺)途切れ、その位置が伽藍の中軸線と一致することから門の存在が推定される。

【回廊内調査区】

金堂基壇を削平した際の土砂・瓦が厚く堆積している。瓦類、特に東トレンチから南都七大寺式系の鬼瓦が出土したが、国分寺と直接関連する遺構は確認されなかった。

【回廊南調査区】

国分寺と直接関連する遺構は確認されなかった。

【回廊西調査区】

西辺築地 SA0367 上部は全く削平され、内外側溝から推定される。

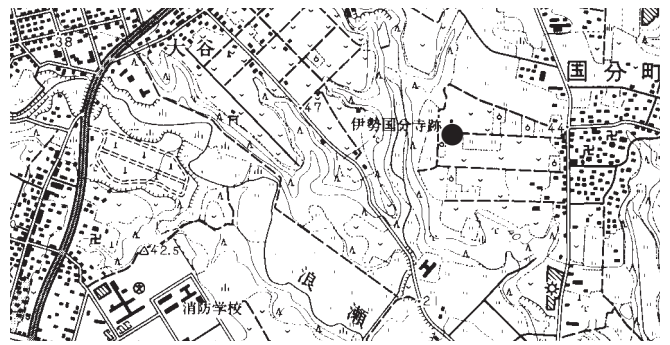


Fig. 11 伊勢国分寺跡（第29次）位置図（1/25,000）

【鐘楼（経蔵）推定地調査区】

土坑 SK0340 南北10mあまりある巨大な土坑である。金堂改修に伴う土取り、廃棄土坑であろう。

【講堂東調査区】

掘立柱建物 SB0302 東西7間×南北2間の両庇建物。柱間は桁行き3m、梁行き2.25m。柱掘方は1mを超えるものがあるが、形や並びはあまりよくない。

土坑 SK0307・0309・0310・0327 SB0302の周囲に位置する土坑群。SB0302との切り合いが無くSB0302に伴うものと見られる。瓦片・土器類・炭・焼土を多く含む。SK0309からは志摩式製塩土器が出土した。

掘立柱建物 SB0306 南北2間の東西棟建物。柱間は桁行き7尺、梁行き7.5尺。SB0302より時期は降る。

築地 SA0316 上部は全く削平されているが、両側溝により推定される。基底幅約2.5m。28次のSA0206に続く伽藍地内を区画する南北築地である。

門 SB0311 SA0316の東側溝の間が約3m途切れ、その部分で築地 SA0314 基底部上に2基の柱穴が検出され、掘立柱の棟門を想定した。西の側溝から鬼瓦が出土した。

東辺築地 SA0370 上部は全く削平されている。内外側溝によって推定される。基底幅約2.5m。SA0314との距離は芯芯で約63.5mである。

【南東隅（2）調査区】

掘立柱建物 SB0301 東西5間×南北2間。庇は持たない。柱間は桁行き3m、梁行き3m。柱掘方はおよそ1m。28次調査で検出された片庇建物 SB0220 から9m北に位置し、柱筋も通っている。

3. まとめ

主要伽藍としては僧坊 SB0350 を確認した。基壇の残存状況は極めて悪いが、南北9m(30尺)×東西72m(240尺)である可能性が高い。北辺築地からの距離は芯芯で約30m(100尺)、講堂からの距離は芯芯で約27m(90尺)を測る。講堂との間は、幅6m(20尺)の軒廊 SC0360 で結ばれていたとみられる。

伽藍地北東院の中心部からは大型の掘立柱建物1棟 SB0302 を検出した。周囲にこの建物に伴う廃棄土坑が多

数存在し、土器類や炭・焼土が多量に投棄されるなど生活感が強い。一部の土坑からは製塩土器も出土している。食堂あるいは厨院・大炊院の一部とみられる。

伽藍地南東院からも、大型掘立柱建物1棟SB0301を検出し、28次調査のSB0220と2棟が並立していたことが明らかになった。他の国分寺でもあまり例を見ない。28次調査の際にも、仮設の仏殿、寺院の運営にかかわる政所

院、經典の講読を行う役僧の宿舎である講院や読院、そして造営にともなう寺務所などさまざまな案が出されたが、それを特定できるような遺物は今回も出土していない。

塔については、今回の調査でも残念ながら手がかりが得られなかった。

(藤原秀樹)

【参考文献】

藤原秀樹 2004『伊勢国分寺跡4』鈴鹿市教育委員会

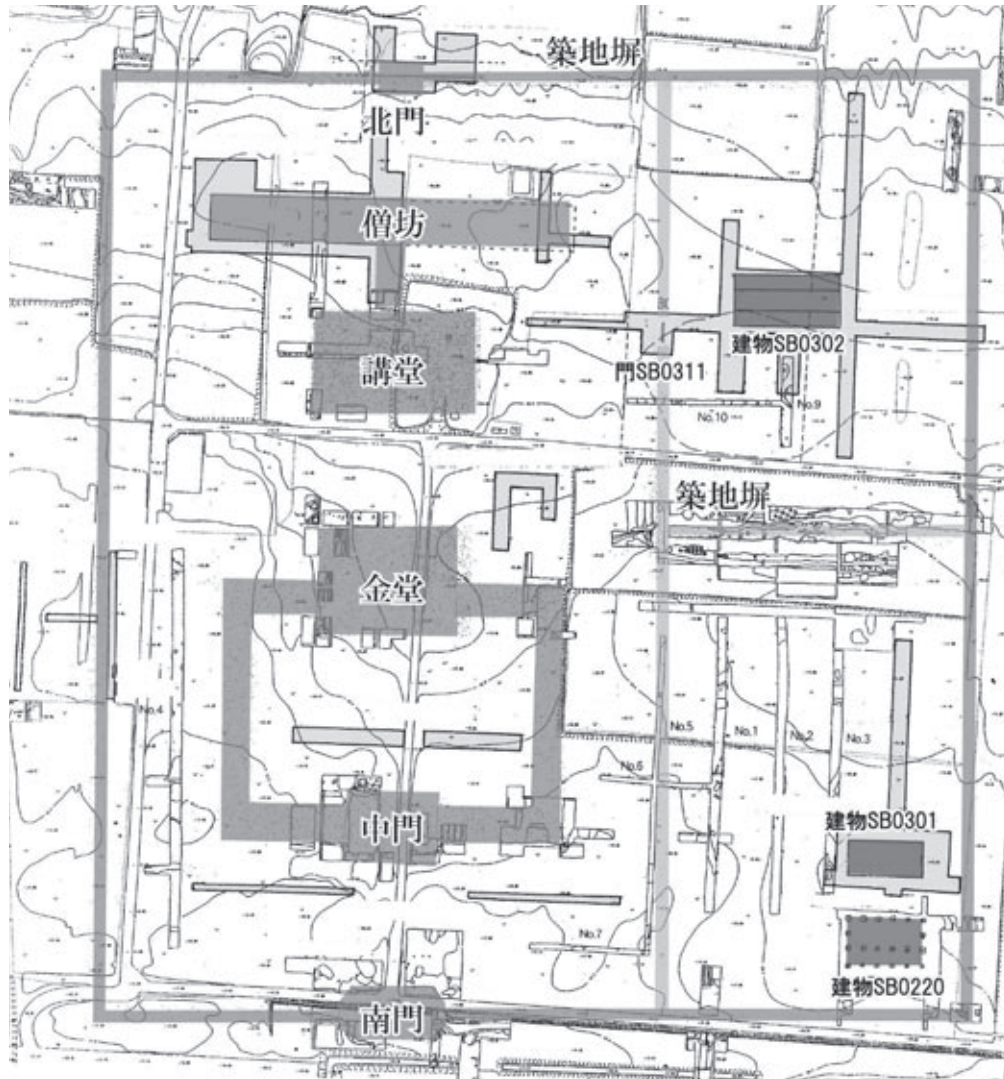


Fig. 12 伊勢国分寺跡発掘調査区配置図 (1/1,500)



Fig. 13 SB0302



Fig. 14 僧坊調査区全景

2. 伊勢国府跡（第18次）

所在地	第18-1次 広瀬町字矢下 1126・1144 西富田町字矢卸 1015 番 15～17
	第18-2次 広瀬町仲土居 1283 番 2
事業主体	鈴鹿市
調査目的	学術調査（国・県補助）
調査期間	平成15年4月17日～11月26日
調査面積	950 m ²
調査主体	鈴鹿市教育委員会
調査担当	水橋公恵

はじめに

鈴鹿市広瀬町・西富田町・亀山市能褒野町・田村町にまたがって広がる長者屋敷遺跡は、安楽川北岸の標高約50mの段丘上に立地する。

鈴鹿市教育委員会では、平成4年度から学術調査を続けており、平成7年度までに政庁全体の構造・規模がほぼ明らかとなった。その後、政庁周辺の調査を進め、北方では区画内部に瓦葺礎石建物（北方官衙）が整然と建ち並ぶ方格地割の存在を確認している。昨年度は政庁南方で調査を行った結果、主に弥生時代から古墳時代にかけての遺構・遺物を確認した。

調査の概要

第18-1次調査

昨年度調査に引き続き、政庁南方に延びると想定されている古代官道を対象に調査を行った。南門の近くに調査区を設定したが（6AJC-F区・6AJD-E区）、古代の道路遺構は確認されなかった。そこで、圃場整備前に政庁付近から南へ一直線に延びていた農道が台地から低地へ降りる部分の谷状地形を、古代官道の建設による切り通しと考えられないかという指導委員会の指摘に基づき、6ALE-A区・6ALC-G区・6ALE-B区の調査区を追加設定し調査を行った。遺構は確認されなかったが、遺物としては瓦が少量出土した。

第18-2次調査

政庁の北に展開する方格地割のうち、仲土居地区と呼んでいる南北2区画の区画間道路付近を対象に調査を行った。

溝5条と土坑1基を検出した。遺物としては、瓦・ロクロ土師器がコンテナケースに1箱程出土した。

溝は、いずれも北方官衙と呼ばれている政庁北側の方格地割に関連する溝SD255～258である。埋土の状態からSD255とSD256、SD255とSD258、SD257とSD258の間にはそれぞれ築地塀が作られていたと考えられる。SD255は仲土居地区の南北2区画の西端を

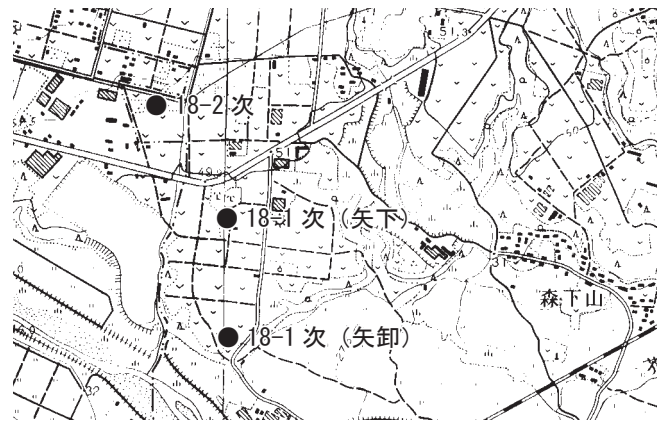


Fig. 15 伊勢国府跡（第18次）位置図（1/25,000）

一直線に区切っているが、北側部分は北区画の西辺築地外溝、南側部分は南区画の西辺築地外溝を兼ねており、SD256は北区画の西辺築地内溝、SD257は南区画の北辺築地外溝、SD258は南地区の北辺・西辺築地内溝にあたる。築地塀のうち、南区画の北辺築地は途中で途切れ、北区画の南辺築地は造られた形跡が確認されなかった。また、柱穴と思われるSK259はSD255よりも古いことが判っており、位置関係から方格地割敷設に伴うものである可能性が考えられる。

まとめ

第18-1次は、政庁南門に取り付く道路を確認するための調査であったが、道路遺構のみならず古代の遺構は何ら検出されなかった。

第18-2次調査では、溝が区画を全周していないことが注目される。北区画では南辺築地塀の内溝・外溝ともに検出されず、南区画では北辺築地塀の内溝・外溝が両方とも同じ場所で途切れてしまい、その続きが検出されなかった。

つまり、築地塀は、北地区の西辺、南地区の西辺および北辺の西側1/3ほどは戦前まで崩れながらも残っていたのであり、その後の開墾により地上部分は完全に滅失してしまったが、その痕跡としての内溝と外溝が今回の調査により確認されたことになる。逆に言えば、今回溝が検出されなかった部分については、開墾前にも土の壁は存在しておらず、築地塀自体がもともと造られていなかったことも十分に考えられるわけである。こうした築地塀のあり方は、国府の未完成を強く印象づけるものとなった。

（水橋公恵）

【参考文献】

水橋公恵 2004『伊勢国府跡7』鈴鹿市教育委員会



Fig. 16 18-1次 6AJC-F区と政庁基壇（南から）



Fig. 17 18-2次調査区（西から）

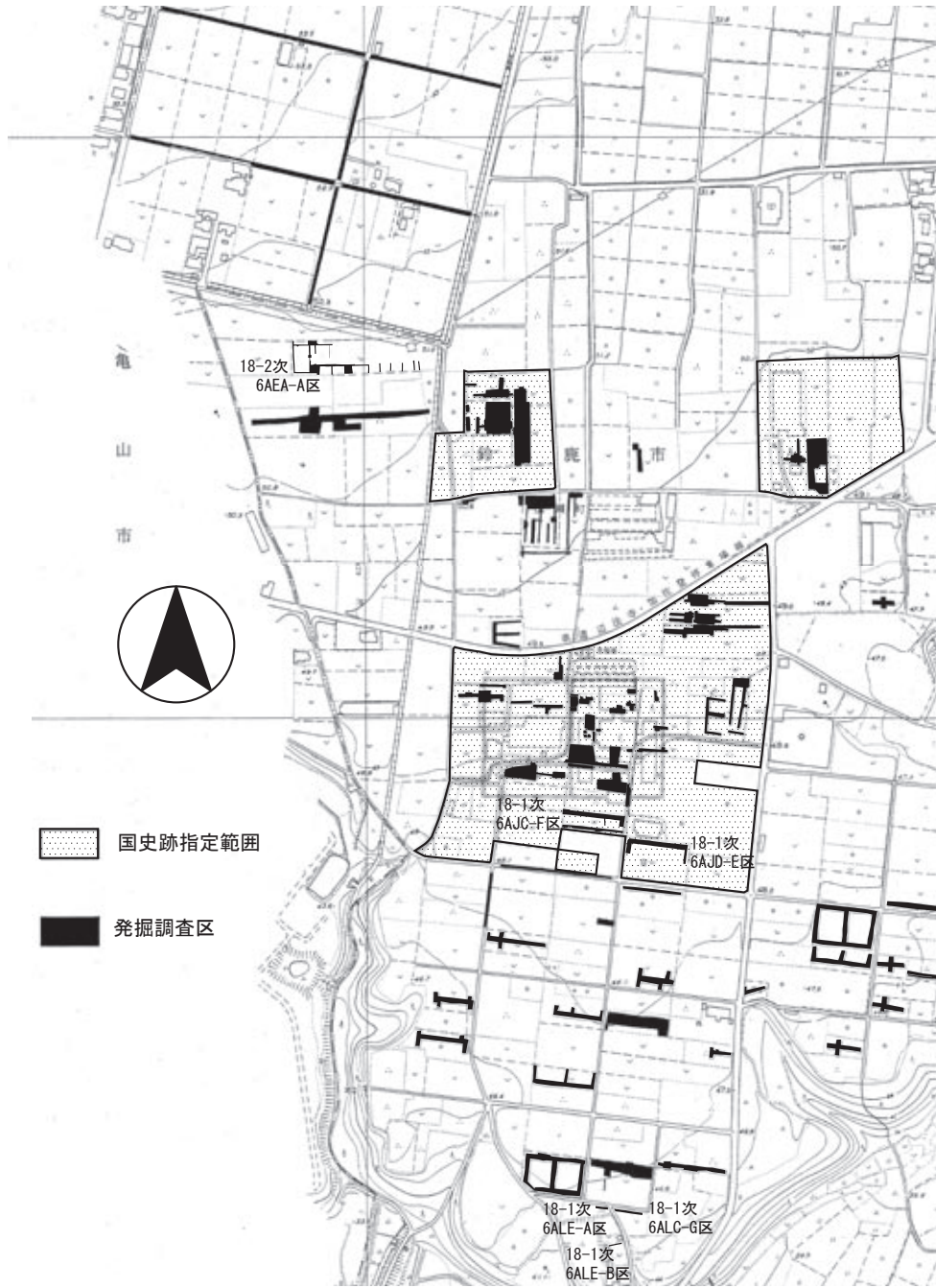


Fig. 18 伊勢国府跡調査区配置図 (1/5,000)

3. 天王遺跡（第11次）

所在地	鈴鹿市岸岡町589番地の2
事業主体	三重県厚生農業協同組合連合会三重県本部
調査目的	開発に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間	平成15年4月28日～7月21日 8月21日～10月10日 11月4日～12月5日
調査面積	900㎡・1,200㎡・300㎡
調査主体	鈴鹿市教育委員会
調査担当	林 和範
調査補助	服部英世（三重大学大学院）

調査成果

今回の調査では、掘立柱建物・溝・土坑・柱穴などを検出した。

溝 SD1138・環濠 SD1188 11-1次調査で見つかったSD1038は、限られた調査区の部分的な検出のため確実とはいえないが、10次調査で見ついている弥生時代後期環濠SD1001延長の可能性が高い。検出できた部分で幅2.5m、深さ1.8mである。

11-2次調査では北調査区の北東端と北西端でSD1188を検出した。幅3m・深さ2mの断面V字形の溝である。内側の環濠SD1001に続く環濠であろう。溝の中層には滞水を示す黒色層が発達し、それ以上の層では古墳時代後期～飛鳥時代の須恵器が多く出土している。黒色層より下層では弥生時代後期の土器が出土した。

掘立柱建物 SB1130・1149・11130～11135・11137・11138

11-1次調査区東端で検出したSB1130は一部調査区外となっているが、3×3間（5.6×5.6m）の総柱建物である。柱穴断面および底面の観察から重複している可能性があり、その場合同一場所での建替えも想定できる。時期の決定ができる遺物は出土していないが、9次調査で見ついているSB0943・0944に柱穴の大きさ、建物の主軸方位が近似することから同時期の飛鳥時代に属すると考えられる。11-2次調査区のSB11131も同時期であろう。

SB11132・11133はともに東西3間・南北1間分しか確認できていない総柱建物であるが、柱筋を通して配置され、正方位に近い主軸方位をとる。前述した2棟に比べ柱穴、柱間など規模が小さい。

SB11130は攪乱によって多く破壊され、断片的にしか確認できていないが、2×4間の身舎の北側に廂がつく建物と思われる。

SB11134はSB11131とほぼ同規模の総柱建物と考えられるが、主軸方位がやや異なる。SB1149も総柱建物か。SB11135・11137・11138は部分的にしか確認できなかったため、全体の規模・構造等は判然としない。

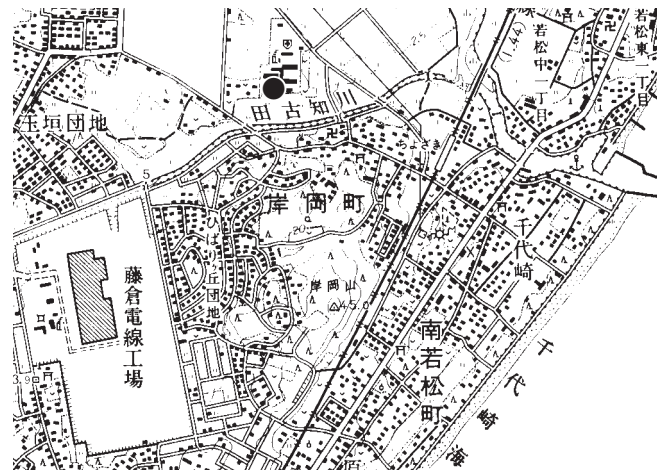


Fig. 19 天王遺跡（11次）位置図（1/25,000）

たため、全体の規模・構造等は判然としない。

掘立柱建物 SB1148・土坑 SK1101 SK1101は2m×2.4m以上の長方形の浅い土坑である。SB1148の屋内に付設される「建物内土坑」であろう。削平により土坑・柱穴の遺存状況はよくないが、SB1148は西側に展開すると考えられるため、少なくとも建物南東隅の1×2間分を占めるものと思われる。鎌倉時代の常滑焼鉢・甕の体部片や山茶碗に混じって天王廃寺関連の瓦も出土した。

掘立柱建物 SB1147 11-1次調査では柱穴列を4間分（柱穴5基）検出した。径50～60cmの柱穴が2.25m間隔で東西方向に並ぶ。柱穴内には礎盤として30～45cmの石が据えられていた。1番西の柱穴からは、「天聖元寶」・「皇宋通寶」など4枚が出土した。また、土師器片のほか完形の山皿が出土していることから、鎌倉時代の遺構と考えられる。11-2次調査ではさらに北側の柱列を検出し、建物の1×4間分を確認したことになる。柱穴・礎盤はこの時期の一般的なものと比べて大きいことが特徴的である。柱間もやや広く、堅強な構造である。

井戸 SE1173 病院建物の基礎下からみつかったため、全体規模は確認出来ていないが、1辺2.4mの隅丸方形で深さ2.3mの素掘り井戸である。

山茶碗などの出土遺物から鎌倉時代の遺構と考えられる。その他に曲物底板、ヘラ状木製品が出土し、最下層からは18.5×19.5×9.3cmの枅がほぼ完形で出土した。材質はヒノキで、竹釘を用いて組み合わせる。底面の4辺中央と側面の4角中央にV字形の切り込みがなされている。

溝 SD1120・1123・1196・11100 SD1120・1123は11-1次調査区中央で見つかった溝である。南から北へ延び、東へ向きを変え再び北へ延びる。溝の土層断面の観察によりSD1123→SD1120という掘削の前後関係が判明しており、ほぼ沿うように掘り直されている。SD1120は幅3m、底部中央で1段掘りくぼめられており、深い個所で

70cm, 浅い場所では 30cm 程である。SD1123 からは五輪塔の空風輪が出土し, その他出土した土器から室町時代の溝と考えられる。11-2 次調査区の SD1196・11100 も一連の溝である。調査区南部で西へ延びる溝と接続しており, この地点で T 字か L 字状となる。SD1120 は溝の一部を掘り残し土橋状としていることから, 通路が存在した可能性がある。

まとめ

飛鳥～奈良時代の掘立柱建物は, 多くが調査区外へ展開するため, 断片的な状況把握でしかないが, 過去の調査地点での側柱建物・総柱建物の比率からみると, 今回の調査地点では総柱建物の割合が高く, かつ集中的に見られる。時期も複数期にわたることから, 飛鳥～奈良時代において継続的に, 倉庫である総柱建物が採用された地区といえる。隣地に想定されている天王廃寺関連遺物としては, 中世の pit に礎盤として使用されていた, 外縁に珠文を配す複弁十二葉蓮華文軒丸瓦がある。この軒丸瓦は, 伊勢国分寺跡・智積廃寺出土のものと同範関係にあるが, いずれの遺跡でも数点しか確認されず, 主体的に使用された寺院はわかっていない。この軒丸瓦の出土は, 8 次調査で出土した南浦廃寺の川原寺系軒丸瓦と同範であるものとともに, 天王廃

寺が一定期間存続し, その存続期間は奈良時代にまで及ぶ可能性を示唆するものである。

鎌倉時代の天王遺跡は, 9 次調査井戸 SE0928 の墨書山茶碗, 「北寺 (きたのかんだち)」の出土から伊勢神宮領である御厨の存在を想定している。その北西 30 m で, 今回確認された SB1148 は規模・構造ともに特殊であり, 御厨に関連する施設の中核建物か, 重量物を収納していた倉庫の可能性がある。また, 井戸 SE1173 出土の枡が持つ計量具という機能からは, 施設の生産物徴収の場という実務面での活動を窺うことができよう。その他, 周辺の同時期の遺構から, わずかながらではあるが, 貿易陶磁・瓦器が出土していることも注目できる。

室町時代の溝 SD1120 には, 溝の一部を掘り残した土橋状の通路が存在したと考えられる。周囲で見つかった小柱穴や, 10 次調査で検出した井戸 2 基の存在から溝の西側に居住域の想定ができ, SD1120 をはじめとする一連の溝は, 居住域に伴う区画溝と考えることもできる。

(林 和範)



Fig. 20 調査区配置図 (1/3,000)

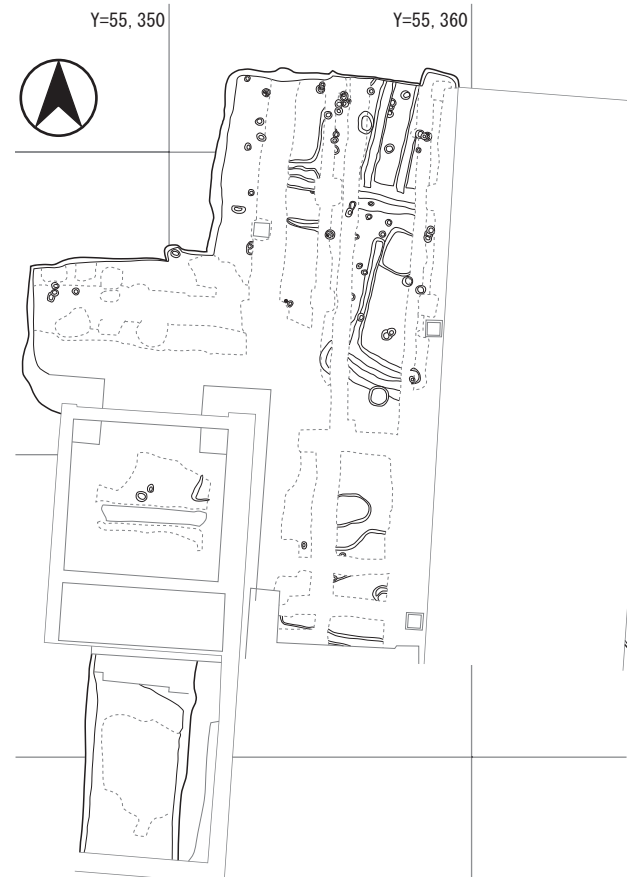


Fig. 21 主要遺構配置図 (1/3,000)

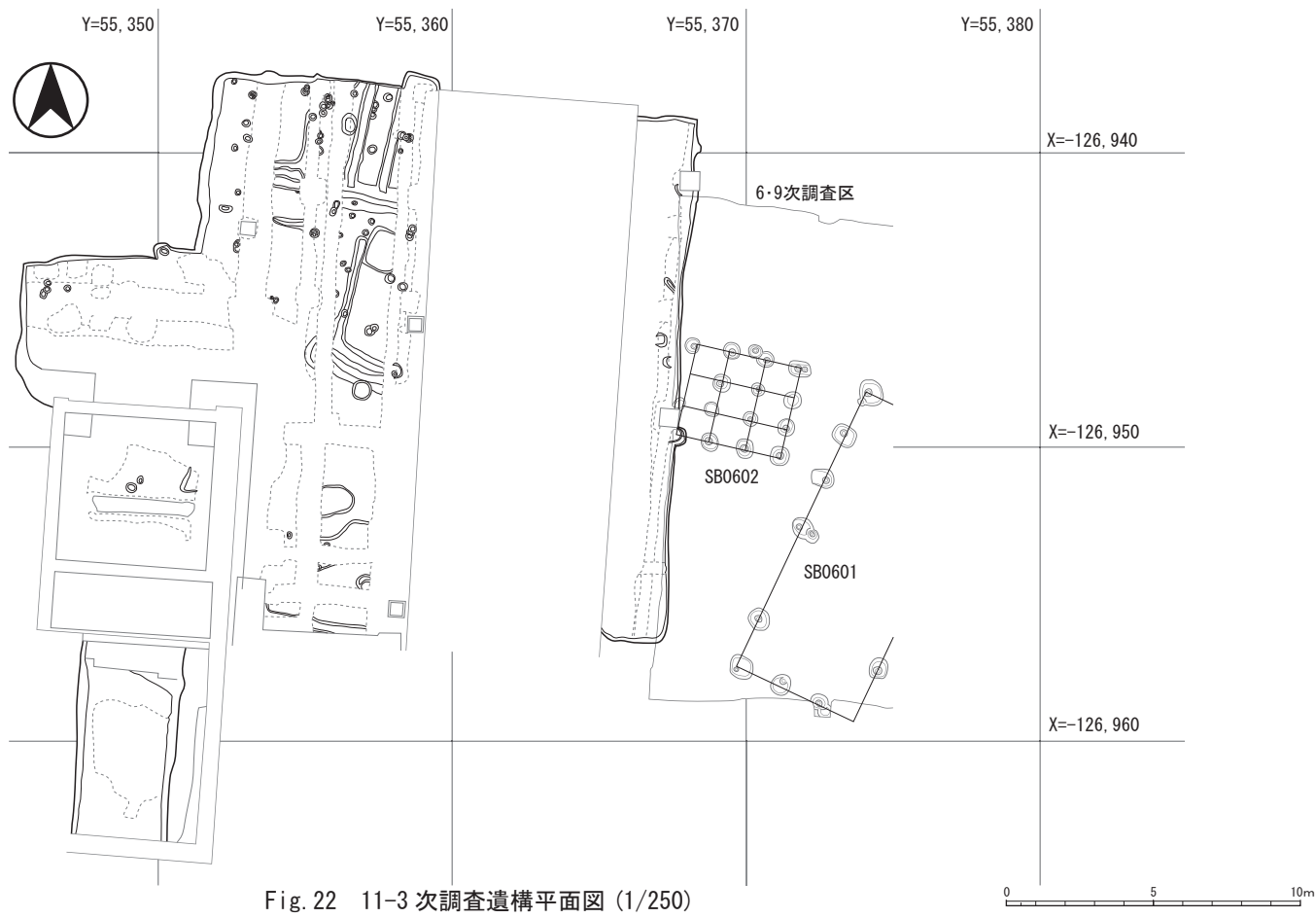


Fig. 22 11-3次調査遺構平面図 (1/250)



Fig. 23 11-1次調査区



Fig. 24 11-2次(北)調査区



Fig. 25 11-3次調査区



Fig. 26 11-2次(南)調査区



Fig. ● 天王遺跡11-1-2次調査遺構平面図 (1:250)



Fig. 28 SD1188 (北東から)



Fig. 29 SD1188 出土弥生土器台付甕



Fig. 30 SD1188 出土須恵器蓋坏



Fig. 31 SD1188 出土須恵器脚付短頸壺



Fig. 32 SB1130 (南東から)

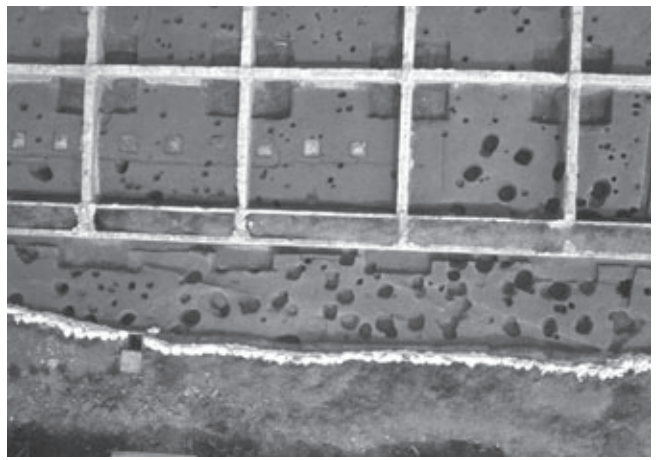


Fig. 33 倉庫群(南)から



Fig. 34 SE1173 出土柶・へら



Fig. 35 複弁十二葉蓮華文軒丸瓦

4. 天王遺跡（第12次）

所在地 鈴鹿市岸岡町589番地の6
事業主体 三重県厚生農業協同組合連合会
調査目的 援護寮・福祉ホーム建設に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間 平成15年4月18日～7月18日
調査面積 803.2㎡
調査主体 鈴鹿市教育委員会
調査担当 伊藤淳 吉田真由美

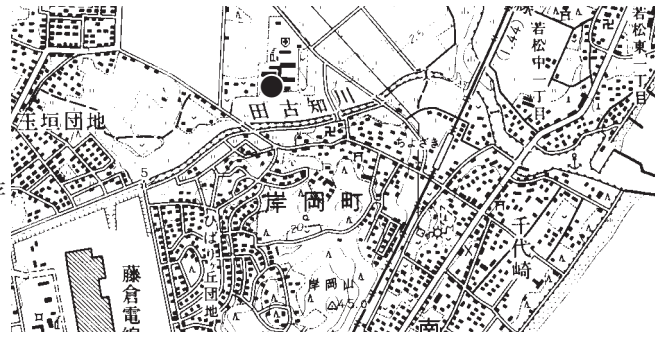


Fig. 36 天王遺跡（第12次）位置図（1/25,000）

はじめに

今回の調査区は10次調査の南で微高地の南辺部近くに位置する。調査の結果、大溝、柵、土坑、小柱穴など検出した。現在、病院が存在する敷地には戦時中に二空廠病院が建設され、調査区南側はその時の造成により、敷地を南へ拡張していたことが確認され、このとき多くの遺構が削平されたと考えられる。

調査の成果

大溝 SD1201 調査区の東側でやや方位が西に振る直線的な南北溝を延長約11mにわたり検出した。幅2.5～3m、深さ1.7～1.8mを測り、断面の形状はV字状を呈し、溝の形状などから10次調査で確認された北東から南西の方向へ直線的に伸びる大溝の続きで10次調査区と12次調査区の間で南東へと向きを変えたと思われる。この溝は弥生時代後期に掘削され、その後、古墳時代後期から飛鳥時代にかけて同じ場所を踏襲しながら再掘削されている。この溝から古墳時代後期から飛鳥時代にかけての土師器・須恵器が多く出土している。また、鉄製紡錘車2点、土製紡錘車1点、刀子や軽石なども出土している。

大溝 SD1202 調査区の北西部で北から南へと向かう幅約4m、深さ1.5～1.7mの南北溝である。南側は溜池状になっていたが、埋め立てたのち再掘削し、木樋が設置されている。この溝は戦時中の造成により調査区南側と一緒に埋め立てられ、現在、病院敷地と住宅地を区画するように存在する用水路に付け替えられた。

柵 SA1204 大溝SD1201の西側で直径0.5～0.7mの円形の柱穴列を確認した。柱間は西から6尺、5.5尺、5.5尺を測る。柵としたが、掘立柱建物の可能性も考えられる。

大溝 SD1205 調査区の南西部で北西から南東へ向かう幅約3m、深さ1.3～1.7m、断面逆台形状の溝を検出した。3、5次調査で延長100mにわたって検出された幅3～5mの大溝（古墳時代後期）のほぼ延長線上に位置する。8次調査でもこの大溝の続きが確認され、最下層から弥生土器や古式土師器が出土しており、掘削時期はさらに遡ると思われる。今回の調査でも8次調査と同様、最下層から

弥生土器が出土しており、弥生時代後期に掘削された溝を古墳時代後期以降再掘削し、さらに中世にも再掘削している。出土遺物には弥生土器・土師器・須恵器・山茶碗などがあり、その他、土馬の頭部が出土している。3次調査ではこの大溝の北西に「コ」の字状に配置された大型の掘立柱建物群が検出され、郡衙の出先機関や、郡司・郷長クラスの有力豪族の居宅などの可能性が指摘されている。また6次・7次・9次調査では7世紀代の掘立柱建物群が検出され、3次・5次・8次調査で確認された大溝はこれらの建物を囲む可能性が高いと考えられる。

竪穴住居 SH1210 南東隅をかるうじて検出した。出土遺物がほとんどなく、詳細は不明である。

まとめ

今回の調査で確認された2条の大溝（SD1201・SD1205）は、弥生時代に掘削された溝を踏襲しながら、古墳時代後期以降数回掘りなおされ、6次・9次調査で確認された大型の掘立柱建物群を2重に囲む可能性が考えられる。また、大溝SD1201から出土した紡錘車は祭祀に関連するものか、あるいは周辺に紡績工房などの施設が存在していた可能性の両者が考えられる。今後、天王遺跡の性格を考えていく上で貴重な資料になると思われる。

（吉田真由美）



Fig. 37 調査区全景

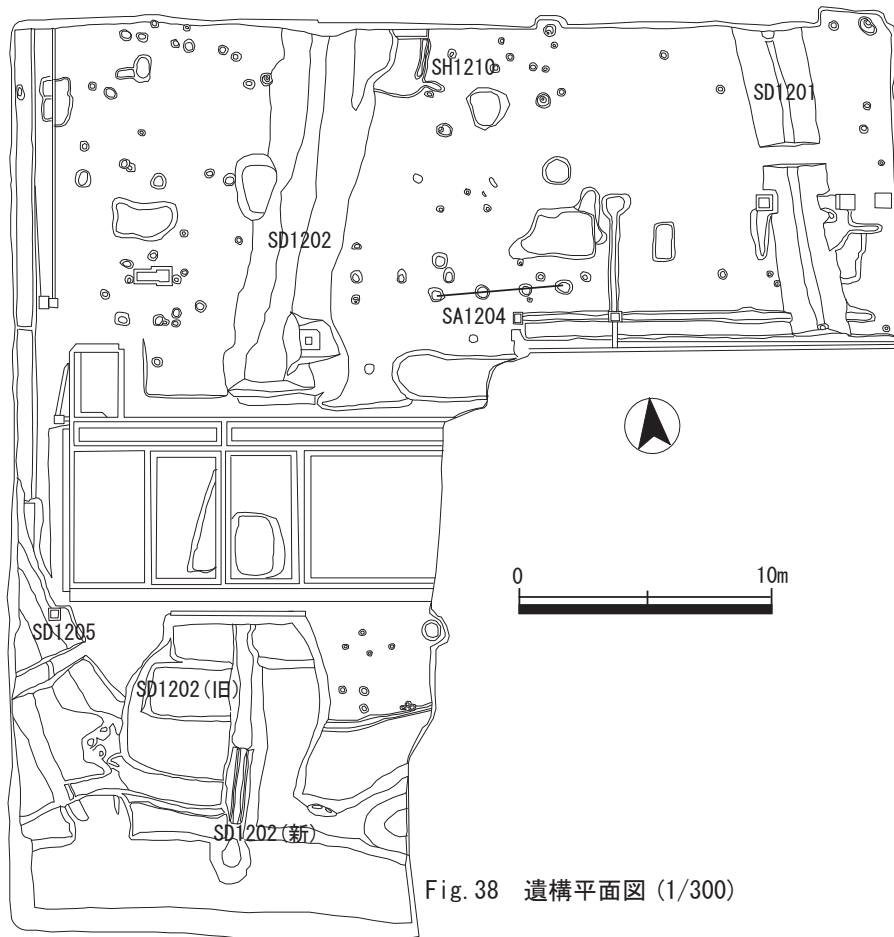


Fig. 38 遺構平面図 (1/300)



Fig. 39 SD1205 (南から)



Fig. 40 SD0201 鉄製紡錘車の出土



Fig. 41 SD1201 断面 (南から)



Fig. 42 SD1201 (北から)



Fig. 43 弥生土器壺



Fig. 44 弥生土器高坏



Fig. 45 須恵器蓋坏・短頸壺・鉢



Fig. 46 須恵器高坏・脚付短頸壺



Fig. 47 重弧文軒平瓦

IV . 平成 15 年度発掘調査報告

1. 加佐登遺跡

所在地 鈴鹿市加佐登二丁目 2540-1
事業主体 個人
調査目的 個人住宅兼店舗建築に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間 平成 15 年 7 月 16 日～ 7 月 26 日
調査面積 111.2 m²
調査主体 鈴鹿市教育委員会
調査担当 藤原秀樹 田中忠明

はじめに 加佐登遺跡は、鈴鹿川左岸の台地上に立地する。地質的には、内部川による旧扇状地として形成された高位段丘の末端にあたる。当遺跡から採集された磨製石斧が神戸高校に保管されているほか、縄文土器から中世の山茶碗や青磁にいたる各時代の遺物が採集され、縄文時代から中世にかけての複合遺跡であることが知られていた。

遺跡内では、これまでに個人住宅にかかる試掘調査が数回行われてきました。しかし、遺構の検出は見られず本調査に至ってない。よって、今回の調査が加佐登遺跡の第 1 次調査となる。

調査は、重機により盛土および旧耕作土（黒色土）を除去して、下層の基盤層（明褐色砂質シルト）の上面で遺構を検出した。その結果、4 基の土器棺墓・16 基の土坑・83 基のピット、3 条の溝を検出した。

遺構

土器棺墓 S X 0 1 南北 0.7 m × 東西 0.6 m の楕円形で、検出面からの深さ 0.1 m を測る掘り方を持っている。掘り方内には底部を西に向け、口縁部を東斜め上方に向けて壺形土器が据えられていた。検出面ではもう 1 個体の深鉢形土器の口縁部が下向きで検出されており、合せ口の土器棺であったとみられる。

土器棺墓 S X 0 2 東西 0.6 m × 南北 0.4 m の長楕円形の掘り方に、底部を東に向けほぼ横倒しの状態で深鉢形土器が据えられていた。出土土器は 1 個体のみで、蓋を持たない単棺とみられる。

土器棺墓 S X 0 3 ほとんど削平されて、土器片がわずかに残っていた。掘り方がわずかに検出されたことから、土器棺墓とした。

土器棺墓 S X 0 4 東側の大部分を現代の攪乱穴で破壊されていた。底部を北西に向け、横倒しの状態で深鉢形土器が据えられていた。

溝 S D 0 5 ～ S D 0 7 南北方向の溝。S D 0 5 は幅約 1.3 m、深さ 0.2 m を測る。S D 0 7 は幅 0.5 m、深さ 0.1 m で、S D 0 6 に切られて痕跡的に残っている。これらからは各時期の遺物が混在して出土し、中世末から近世にかけて掘られたものと見られる。S D 0 6 は幅 1.5 m 以上、



Fig. 48 加佐登遺跡位置図 (1/25,000)

深さは 0.5 m を測る。埋土は新しく、近年埋め立てられたもので、S D 0 5 ・ 0 7 を継承して現代まで地境を兼ねた排水溝として機能していたものと見られる。

土坑 S K 0 8 北東-南西方向 2.7 m × 北西-南東方向 1.4 m、深さ 0.55 m を測る長楕円形の土坑である。最上層では土師器・縄文土器が混在して出土し、下層からはサヌカイト片が出土した。

土坑 S K 0 9 S K 0 8 と主軸をそろえて掘られた、1.5 m × 0.85 m、深さ 0.45 m の楕円形土坑である。出土遺物は無い。

その他の土坑・ピット 調査区全体から直径 0.5 m 前後の浅い皿状の土坑が確認されている。わずかに焼土・炭を含む。p -1 から土師器、p -2・4 から須恵器が出土しているため奈良時代以降のものであるが、建物としてのまとまりは見出せなかった。中にはピット p -14・19 のように土器棺に切られるものが存在することから、縄文時代に遡るものも混在していると見られる。また、P-21 からサヌカイト片が出土した。

出土遺物

縄文土器 (1) SX01 出土。口縁部を欠く。いわゆる深鉢変容壺で、胴部に O 字刻みの突帯を巡らせる。突帯より上は横方向の条痕を施し、下部は削り調整される。内面は上部に粗い条痕を施す。底は平底である。(2) SX01 出土。口縁部のみ残存していた。二条突帯の深鉢である。口縁部の突帯は刻み等は無く、丸みを持つ。突帯下辺は僅かに波状をなしている。肩部の突帯には刻み目が施される。突帯間は横方向に強いミガキ様の調整が行なわれる。内面は強い横方向のナデ調整である。(3) SX02 出土深鉢であるが口縁部を欠く。肩部には突帯を有さず、丸みを帯びた僅かな稜をなしている。目の細かい原体により、稜より上は縦方向の条痕、稜周辺は横方向の条痕、稜以下は縦または斜めの条痕が施される。底は平底である。(4) SX04 出土。深鉢の底部のみ残存する。底面は窪む。(5) SX03 出土。深鉢の口縁部で、刻み目の無い突帯を巡らせる。(6) SX03 出土。深鉢の肩部破片。稜はほとんど無く、口縁部を横方向の条痕、胴部を削り調整と区別することで肩部を表している。

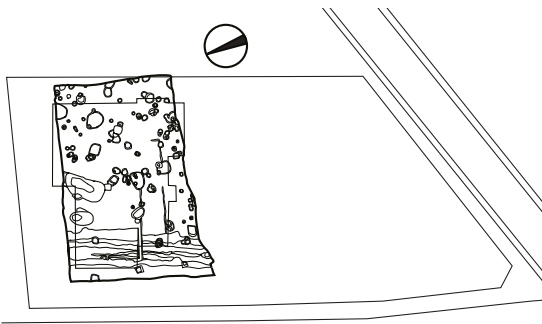


Fig. 49 調査区配置図 (1/500)

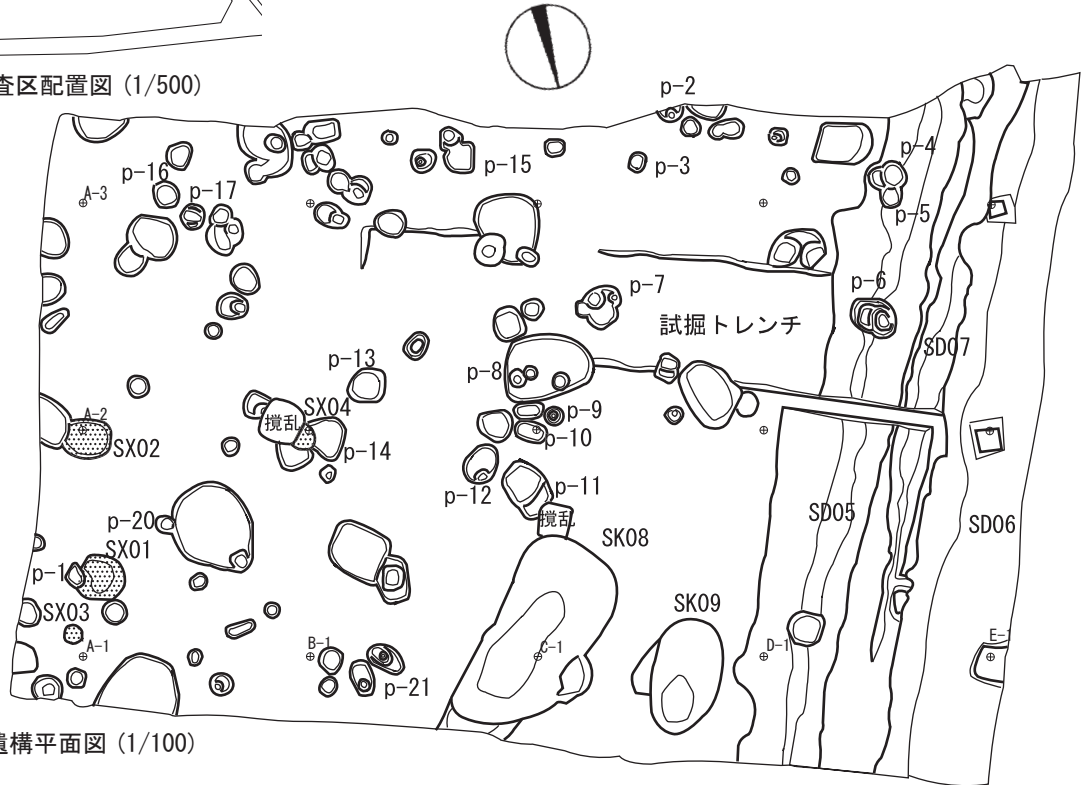


Fig. 50 遺構平面図 (1/100)

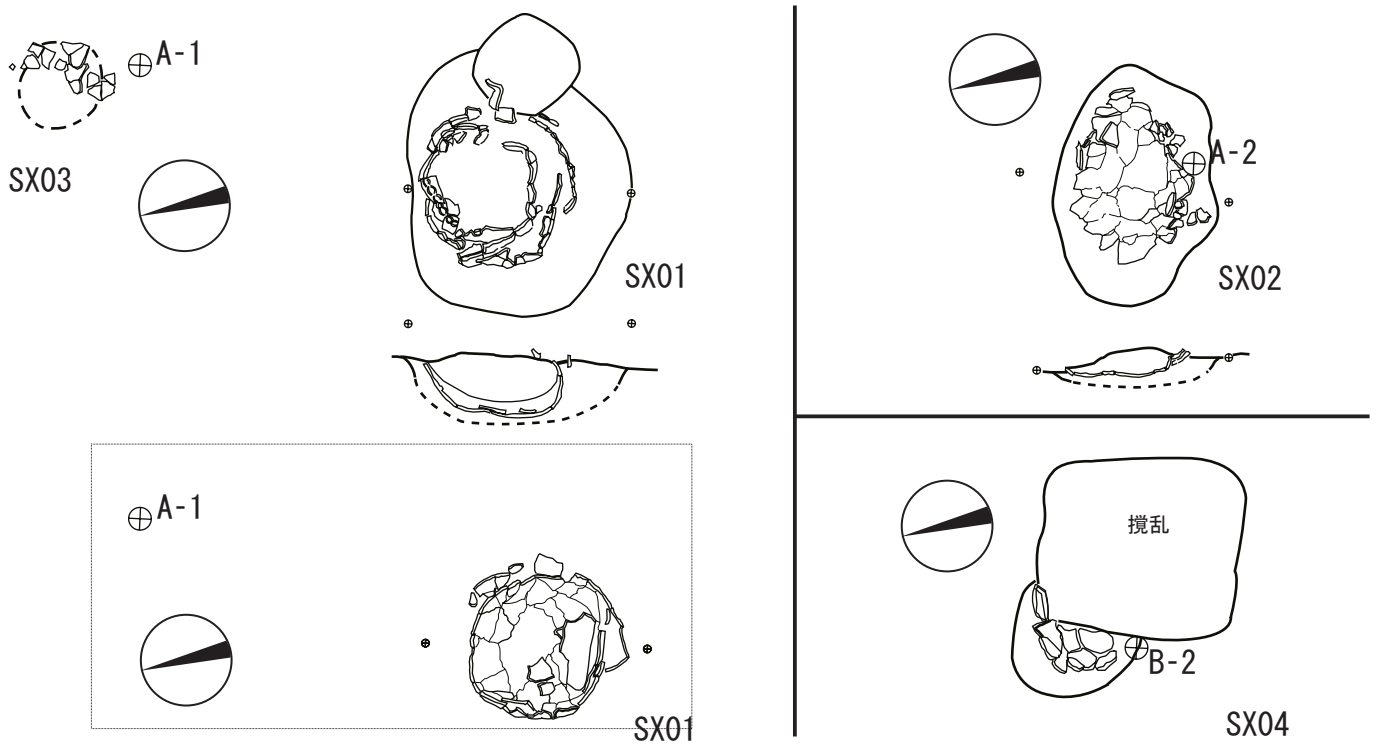


Fig. 51 土器棺墓平面図 (1/50)

(7)P-14 出土。O字刻みの突帯を持つ。(8) 検出時出土。口縁直下に刻み目の無い突帯を有する。石器 (9) 検出時出土。サヌカイト製削器。刃部のみ押圧剥離による加工。(9)SK08 出土。サヌカイト製の横長剥片。

まとめ

今回の調査の重要な成果は、縄文時代晩期の土器棺墓群の発見である。特に、土器棺墓 SX01 の深鉢と壺の組み合わせは興味深い。今回の調査地からは多数のピットや土坑も検出され、石器類も出土していることから、周囲に晩期の集落が立地していた可能性が高いと考えられる。

(藤原秀樹)

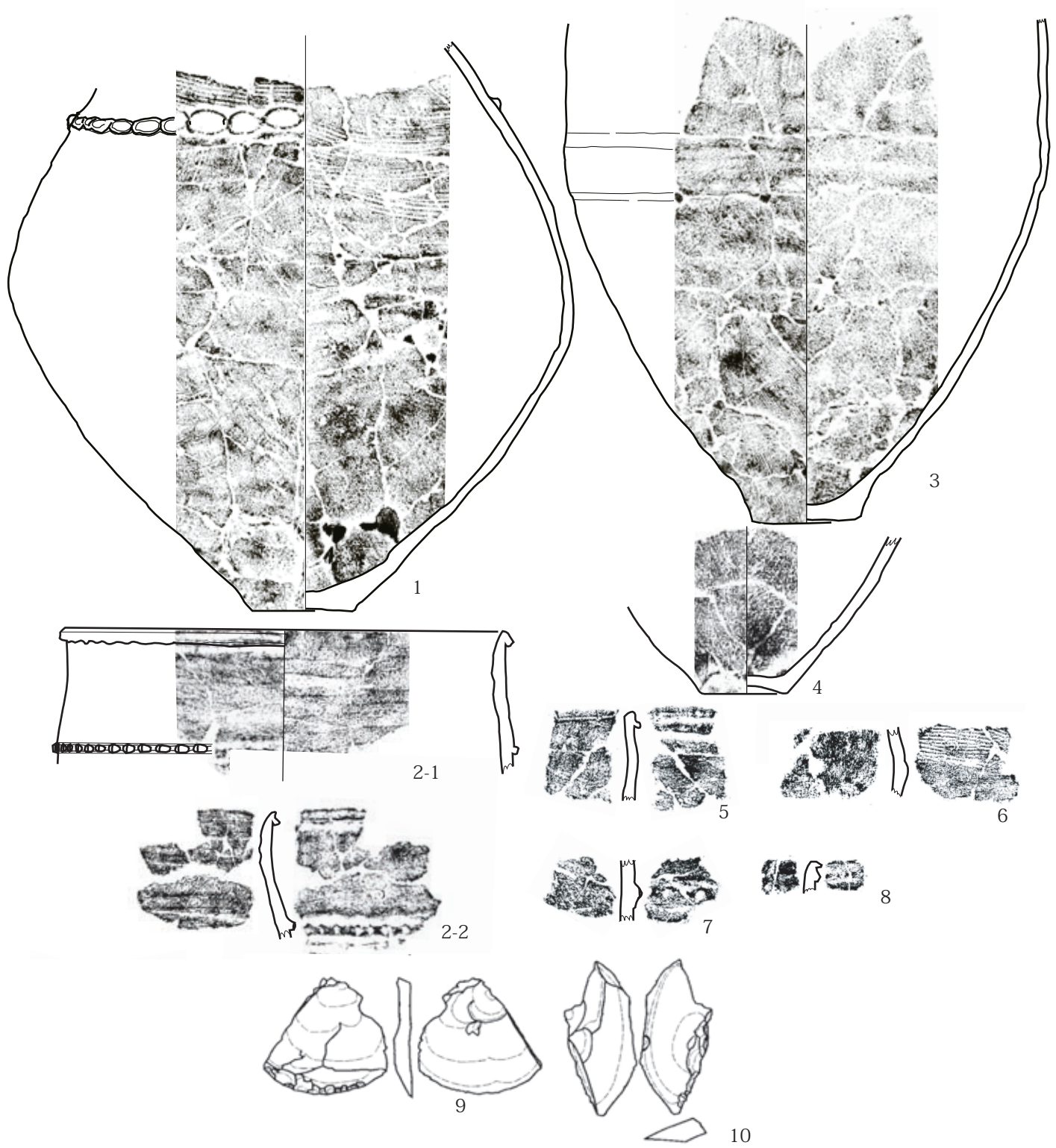


Fig. 52 出土遺物 縄文土器 (1/4)・石器 (1/2)



Fig. 53 調査区全景 (西から)

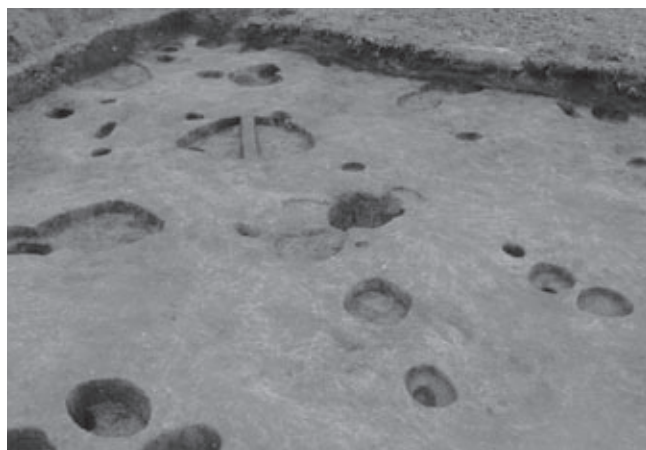


Fig. 54 調査区北東部 (西から)



Fig. 55 SX01 検出状況

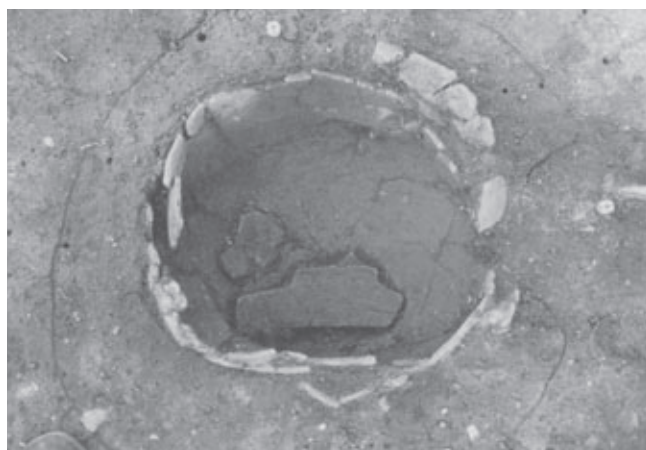


Fig. 56 SX01

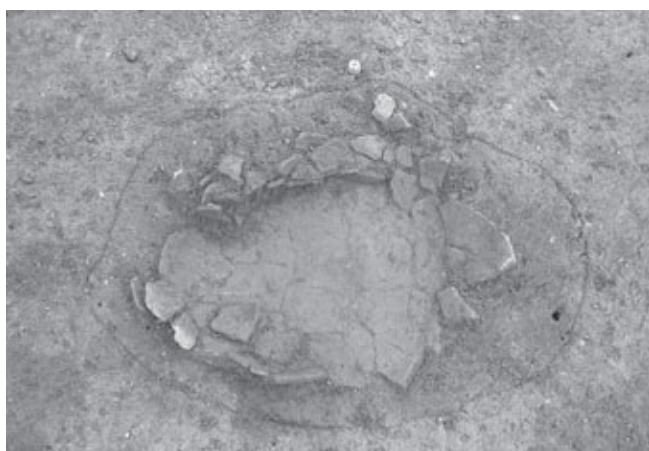


Fig. 57 SX02



Fig. 58 SX03

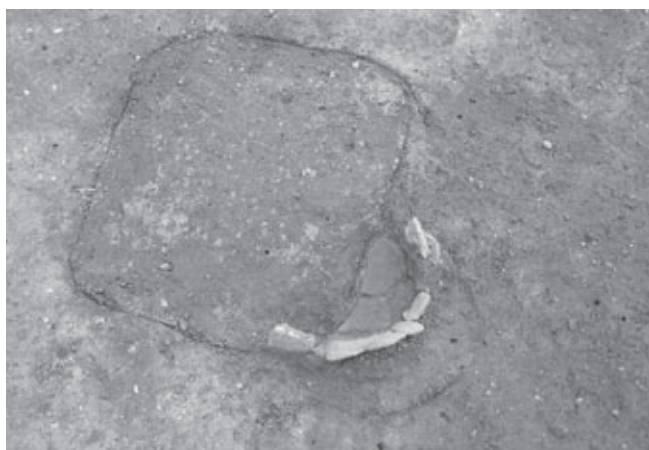


Fig. 59 SX04



Fig. 60 SK08・SK09

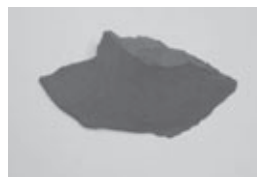
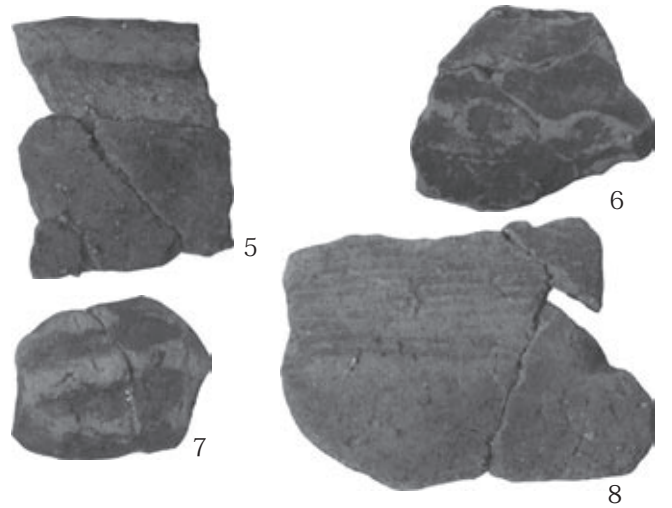
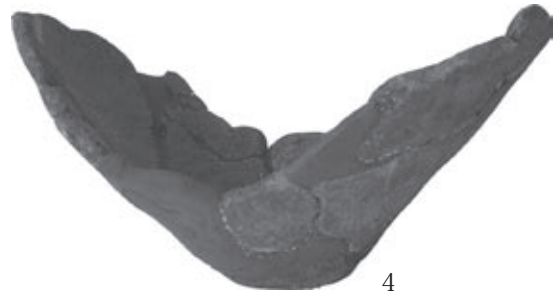


Fig. 61 縄文土器・石器
32

2. 平野遺跡

所在地 鈴鹿市平野町字花林 1168-1
 事業主体 個人
 調査目的 個人住宅兼店舗建築に伴う埋蔵文化財の記録保存
 調査期間 平成 16 年 2 月 27 日～3 月 15 日
 調査面積 72.6 m²
 調査主体 鈴鹿市教育委員会
 調査担当 伊藤 淳

はじめに

平野遺跡は鈴鹿川右岸の河岸段丘の中ほどに位置し、縄文時代の埋蔵文化財包蔵地として周知されているが、これまで本格的な発掘調査は行われていない。そのため、今回の調査が平野遺跡の第 1 次調査となる。この周辺では中尾遺跡で平成 9 年の調査で鎌倉時代の建物跡が確認され、また、富士遺跡でも平成 9 年の調査で方形周溝墓の溝が確認された。

調査の成果

調査地の表土及び耕作土（黒褐色土）を 45～50cm 重機で除去して、暗褐色土上面で遺構を検出した。その結果、6 基の土坑・10 条の溝・39 基のピットを検出した。

遺構

SK01 調査区西側で検出した楕円形の土坑で、5～10cm の石と共に須恵器、土師器、山茶碗、常滑焼、瓦などの土器片が出土したことから、廃棄土坑ではないと思われる。

SK02 調査区東隅で検出した土坑で深さは 10cm を測り、調査区外へ広がる。土師器、山茶碗が出土した。

SD03 調査区のほぼ中央を北西に延びる溝で深さは

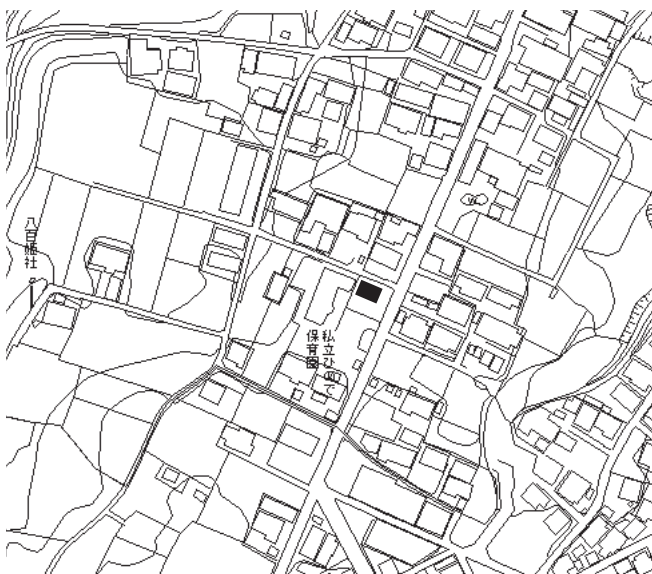


Fig. 63 発掘調査区配置図 (1/10,000)



Fig. 62 平野遺跡位置図 (1/25,000)

15cm を測り、山皿が出土した。

SD06 調査区の中央を南西に延びる V 字状溝である。深さは 25cm を測り SD03 と SD04 が切っている。青磁と山茶碗が出土した。

遺物

山皿 (1) SD03 から出土。口径 7.8cm, 器高 1.9cm である。高台を持たない。

須恵器蓋 (2) 推定口径 16cm, 口縁端は僅かに下に折れるのみである。焼成は良いが、赤灰色を呈する。内面中央部は磨かれたようで黒い、転用硯として使用されたものか。

まとめ

出土遺物は整理箱 2 箱と少なく、山茶碗、土師器が目立つ。山皿 1 点を除き破片であった。

遺構を観察すると、SD03 と SD04・05 は形状が似ておりまた平行に延びることから区画溝ではないかと考えられる。今回の調査は、調査面積も限られ明確な遺構の確認には至らなかったが、鎌倉時代の集落跡であると考えられる。

(伊藤 淳)

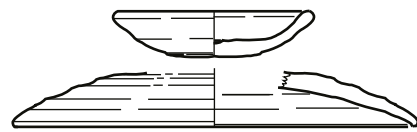


Fig. 64 出土遺物実測図 (1/3)

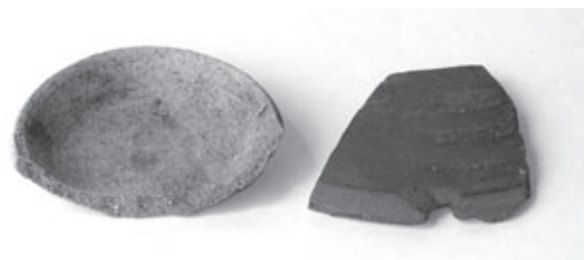


Fig. 65 山皿・須恵器蓋

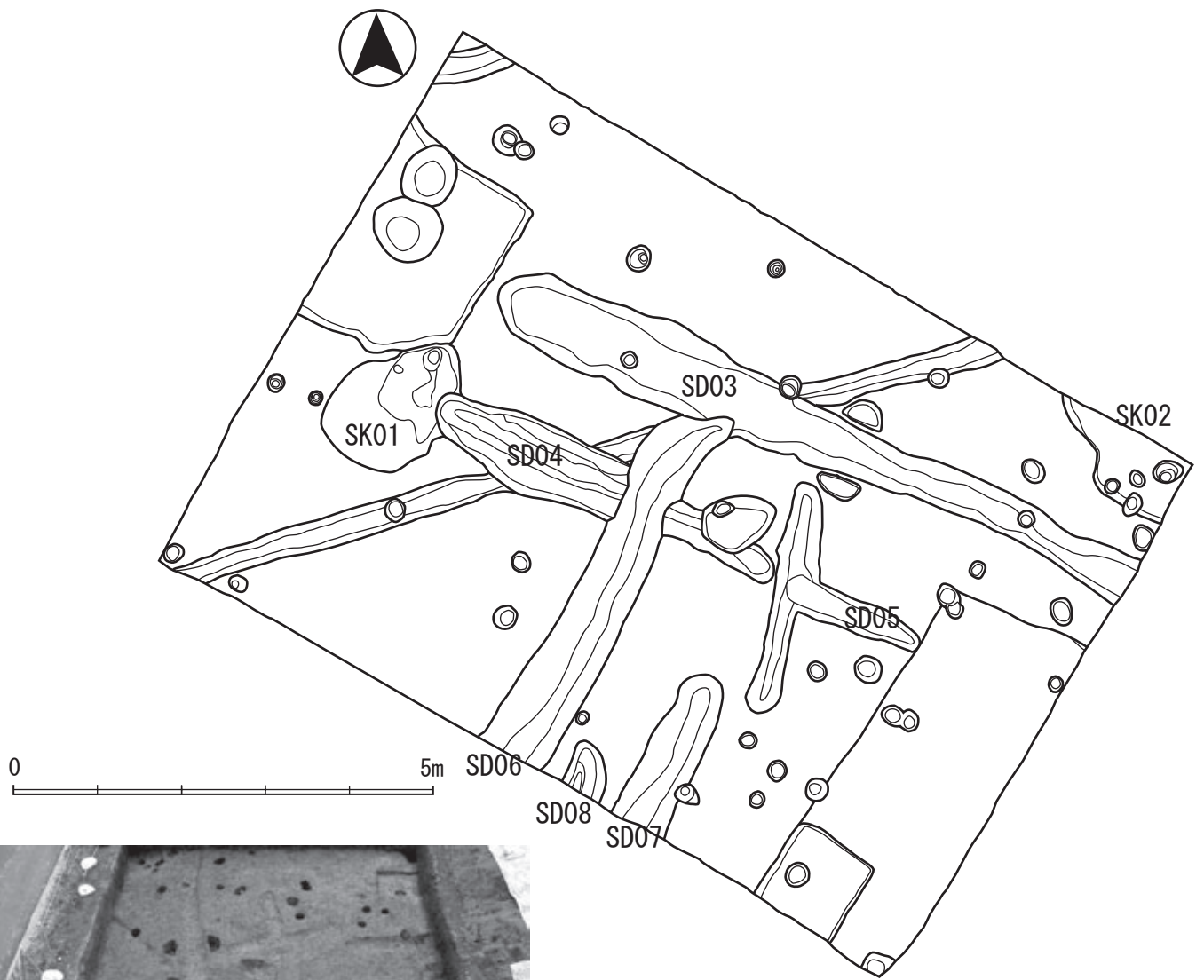


Fig. 66 遺構平面図 (1/80)



Fig. 67 調査区全景



Fig. 68 SK01

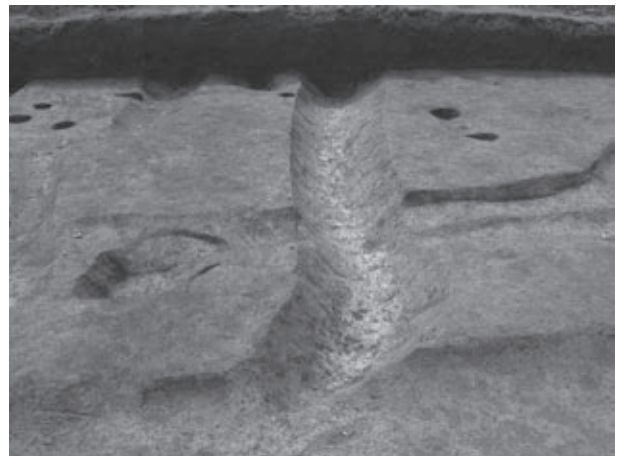


Fig. 69 SD06

Tab. 5 報告書抄録

ふりがな	すずかしこうこはくぶつかんねんぼう 6							
書名	鈴鹿市考古博物館年報 6							
編著者名	藤原秀樹・伊藤 淳・吉田真由美・林 和範							
編集機関	鈴鹿市考古博物館							
所在地	513-0013 三重県鈴鹿市国分町 2 2 4 番地 TEL0593(74)1994							
発行年月日	2005 年 3 月 31 日							
よみがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かさど 加佐登	鈴鹿市 加佐登二丁目 2540-1	24207	7	34 度 53 分 35 秒	136 度 31 分 50 秒	平成 15 年 7 月 16 日～ 7 月 26 日	111.2 m ²	個人住宅兼店舗
ひらの 平野	鈴鹿市平野町 字花林 1168-1		158	34 度 51 分 50 秒	136 度 31 分 50 秒	平成 16 年 2 月 27 日～ 3 月 15 日	72.6 m ²	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
加佐登	集落	縄文	土器棺墓・土坑 ピット・溝	縄文土器 石器		縄文晩期の土器棺墓を 4 基確認		
平野	集落	中世	土坑・溝・ピット	山皿 須恵器		中世の集落		

鈴鹿市考古博物館年報 6

発行日 2005年3月31日
編集・発行 鈴鹿市考古博物館
〒513-0013
三重県鈴鹿市国分町2-2-4番地
TEL 0593(74)1994
FAX 0593(74)0986
E-mail : kokohakubutsukan @ city.suzuka.mie.jp
URL : <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/>
印刷 早川印刷株式会社

**ANNUAL BULLETIN
OF
SUZUKA MUNICIPAL MUSEUM OF ARCHAEOLOGY
Vol.6**

March 2005

Suzuka city, Mie-pref., Japan